

失敗したいですか？

～知らないと損する、

就職、転職、キャリアのこと～

木下 真由子

## はじめに

私は「キャリアの相談」という仕事について約10年となります。元々は化粧品会社の営業兼美容インストラクターでした。約7年間。その後、結婚を機に転職をして、人材業界に入ることになりました。化粧品会社のときに「女性が生きる」「女性が働く」ということを目の前で見て、今度はそれをサポートする仕事でした。その経験から女性だけではなく、「人が働くということをより深く考えていきたい」と変化していきま

した。

最初は、個人のキャリアに向き合うことが、苦痛になったときもありました。しかし、子どもが生まれて「この子たちが生きていく世の中が必ずしも安定で安心なものとは限らない。そのときに自分で自分を守っていくだけの『生き抜く力』を考えて行動する力」が必要である」と考えるようになりました。気がつけば約10年。正確に数えてはいませんが、約2000人以上の方とお会いしてご相談に乗ってきました。「キャリアアドバイザー」だけではなく、その方の人生やそれにまつわる人の話などを聞いてきました。20代の方もいれば、40代の方も50代の方もいらっしやいます。人それぞれの転職や想いを持って、相談に来られます。誰一人として同じキャリアや人生はなく、同じアドバイスもありません。多くの方との相談の中でたどり着いた答えが「自分とどれだけ真剣に向き合い続けるか」「どういう生き方をしていきたいのか」がキャリア形成にとってとても大切だと思いうようになりました。

私自身、決して人に自慢できるようなキャリアではありません。誰よりも不器用な私は、壁にぶつかって

ばかりでした。紆余曲折を重ねながら、自分も遠回りをして、泣いたり笑ったりしながら、40歳を迎えました。そんな遠回りをしてきた自分は、働くことは本当に楽しく、日々勉強だと思っています。もちろん子育ての中などで得られることもたくさんありますが、働くことで人と関わり続けることは、自分を磨き、成長できる最大の経験だと思っています。

だから、私が日々のご相談の中で伝えてきていることは、私のほぼ失敗談です。私の失敗や経験から出てくる、こんなふうを考えてみたら、こんなふうに行動してみたら、うまくいったというお話を、ご相談者様の立場に置き換えて話をしています。失敗だらけの遠回りの人生でしたから、若い人にはできるだけ時間を無駄にせず「働くことを楽しんでみましょうよ！」という思いを込めて、お一人お一人と向き合ってきました。今回は、その日々伝え続けてきたことを本にまとめることにしました。

そして、全体的に社会人1年目〜若手に向けてという内容に見えるかもしれませんが、40歳、50歳になって結局は自分と向き合うことは変わりません。知っていますか？会社の中でお荷物となり、コストになってしまった人材が「ゆでがえる」と言われていることを。彼らがこの日本経済を少なからずともつくってきしてくれたはずなのに、社会が変わり、会社が変わり、ゆでがえると言われる。それは、同じ40代として悔しいと思っています。

この本を読んで、若手もベテランも、就職や転職という目先の言葉だけにとらわれずに、「ご自身の人生やキャリアについて自分の考えと行動を変えていく」という気づきのきっかけになれば幸いです。